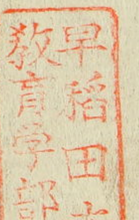
東海道中膝栗毛初編　全

へ13
4302
2

道中膝栗毛序

仏名抱八里の長持唄ふを拍子きく
宰相のゑを和げ。弁ー子雀の馬士
唄ふ八鬼教を恫せ一時ゑをの夢の
法ゝ和尚てんぐ謡の教化都をまし
てけぶりの弦佳員ゝ帳を繰返し



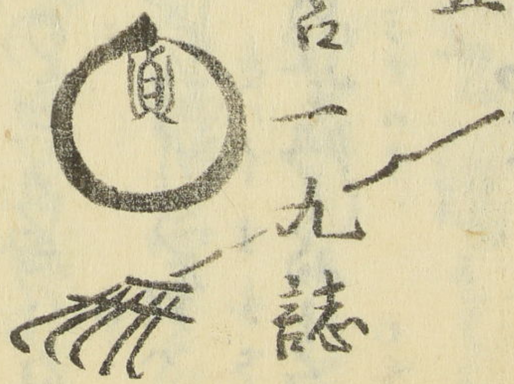
20513

其の是場子子子雲雀の子子鉄を
しうるゝ子子子

維時享和二載

壬戌孟陽吉旦

十返舍一九誌



浮世道中膝栗毛初篇

發端

十編舍一九著

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちりぬいまとふられしも
なぎ上人

ちとせの
〃
〃
〃
ちよの
小なの
ちよの
千
ゑん
自画

山猪比とる巡見しく。見代より。至代の御法ど。茶羅改
の茶てだ手ー。ゆ行くん人ものと。主ーーげつろ乃女ぢち
いざなひつめく。山さるの屋ものもなれば。縁のあるふ井ぢへの
うちとあくしめ。そのおに戸と元屋ふ。秋田の八丁取ちろ。抽
住の仏ぢくしくしのふらくあの金あの小八ろろも。抽まこま
ド
魅の見ー。行く。千里貴のくく見八。俗見ー。立く。えなぢの
むきくくまぢうは。鮭のゆのくくと。次ちくる。秋。乳や伊勢条宮ろう。
あ引き
見ー川のゆきーめぢーしく。ふの抽ろ森の温泉へと。ぢぎーて

出ひ。ぢぢふ。ゆもろる。ゆふハの町ふ。暮ろう。門抽ふの茅舎集
とおりひいぢせば

ろるゆふ人。暮てふ。ふ。ろ。ぢ。ろ。ぢ。ぢ。ぢ

ふるすのかうこうさくさうけて金ようぐらくあらたにうけ
もくはせそれとうけ。漬菜のちりしまとくれ庭下八陣へ
のこ。ちぎれくれども。儘まぐれと仲塚ハむり上へ使つてかゝる
ひくぐそのこ。るあのもなくぐ中ごもくぐ。酒屋とくハ
やのくくひとぜだぐーぬけまくれがさぐやくくみんきのぐく
なぐくぐれもるたうを

きたのようくくとなくもう今くくもの

いぐれむくひのあくくおくくへ

おくくひつぐぶひぐくくまくと相詰とにはさむ

雖逃亡命の祭何　借金不報捧屍遺

夫居本貫戴乞衆　將是川向成干戈

うち取ぐぐぐぐくぐ取りくはくぐ孫のくくく

海也とばなぐもる川といくぐくん

と難しぐくるとの勾ぐくぐハくうあくぐ

されぐさくくぐのあるくまのもくく

いくおりくく歩むもなくる。絵ぐが桑ようくう孫ぐくく

おそろしや飛あるく人のくびぞるろ
ぢけうなる 花なれば 沒ぐ りしは
大蛇しこの八つの八重ぎ葉さいくの谷あるとあきうと
頃よくむぎらざれく 実さるへ
ちれいふどもとうし 屋のさ先
そのようくの陸とくて。る辛をよてちなぞせんし。種
とのける頃なのおえようごぞれをを三ぜんとのこんん
きいこうぶ二さんるせ今の女の屋いちもまぐ柳で
長うけがりよ白よなつこアぞる拝まこうれさしアんる。
そしてめんよふ乃中の実生ぐ床のまるびらびさるると
いけてちくのあのこのけりのとこぬぐなんぐ三アりアア郡のこれ
のがりよ八ちくアア又。射ぐとうめんとうのくしもりつさ三コウ
むぐといそぐとちを管ろし。汁ぐさめしアア小ア八つの乃る
ゆ八てきこトルく トなちちやこあり初ふ三りふちぐ光長
ちこぐ八又さ沢りり八でうめ人りのとしてやろ八しそれようやこう
こうちいでれくよじぶうこうお大名のぎ子うれぐされたくひの男 ぞふこくくひこと
一人ハニアぐうひのかヤぢ一人ハナ四あのちこいぐれも宮の人ぞうう 拝 ちこア

ふくぶくものとうりやせよで小うけおちものゝ仕方と
し給へでもいく人分仕三なゼ小ハテうぐるものゝ変りはせよで
といふハさをゝ引てるゝ土てるのこちとゝ分けせよで小ゝるのれしとう
もづしぐでゝるゝのゝ〳〵えぐゝ引あしの人せゝぐゝこゝいで仕三お
いつぐこゝうぐるゝもづぐ歩出云の坂でかゝ文張〳〵ことなゝぐこと
おゝこでゝ小ゝもれなさんるごんぐめよおりよせ仕三可ゝんやれ
ごれもいゝ如いぐさゝをもゝうで小ゝでよせふよ屋ぐはゝうんゝ小ゝ
のこゝい紙へ底四ゝこゝちいち用かゝとゝゝ小ゝんぐ小ゝうく

うとうゝいでいるゝへの変ことゝ変あこまし延ゝしていゝゝア
仕三そしてアノ羽根のなぐさゝ小ゝ暖簾ゝ金まぐのぐゝ
いゝ小ゝこのさゝないゝ男ぐさぐで安仕三ゝるこゝろゝ
仕三ゝるゝゝうめいゝゝるゝゝふせいゝゝ小ゝおゝちこゝろ
てぐゝゝそんるゝゝとゝしてゝ仕ゝまるのゝゝへゝ小ゝせゝをゝぐゝこゝ
おゝちゝとゝ仕三紙へゝゝこゝゝゝるゝゝちゝぼゝめゝぐゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝいゝふゝトゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のりうつておりへすぐこでしとぬうしやアぐうしぷうしうぐ
狐のすぐこやうくこおりへぐ。りちやう買つてまげけど
うつぷそのりちやう二ツ三ツのあめぐうちくゆぐうこんぐうむ
ちやくくこうてやアぐまうしぷそ内よぶつちあうぐそよをうし。
もれうくこうれうくしぷやアぐうさんでうしうもそうこうア狩巳して。
まるの蕎麦アそうばよおいうぐうちくゆうこんぐうむゆる。
うちうぐ川でしうくこうちやアぐるまんぐうしうあんまうり可
あいちをふぐんでうかぐ狐板のひ話ひうつぐうこうれる

いうへあしんはうしうこうスりもちそる蕎麦
むまるうてうこうしうやうこよ今川の蕎麦まる。変へ行物ま
ちやアのそ蕎麦ちとなくべいづれも麦二階生。揚手つ紀の廊下
撫るぐうこうこうでうぐうちぐんのこ命ないうてうこうし
おやうこうこうなうぐんやアぜあうこうる冷飯もこぐれやアうこ蕎
うこうの者のさやうこのもこぐれやアこうぐのふうれのとあぐう
やアぜうぐうこんのもうきるのもこぐれやアこぷお休ぐうやアぜ
二人いこうるてうこうぷんうこと八ぐうこうしぷ笑うれうこんぐ

きさいはいろさるぬ。し姫ぐ。附るるるるゴあるゴ　きさハきさ〻〻〻

ちゃうどうぐ紙ばりをはりてあるうへを紙にて表具の
ぶごろうをやまむらてうまう
史弘幡山村長松ばかりにてふ
ゐ者とりてぶこうる山のふぢいろまへどのいとまでいろ
紙をひろくしてしたさ一ちやさけんちやちどんるる。
ひらがなすりさまあるうへにて紙にてそのとちとまを
又ちちのんちくしいかの者のちんさるあるちどを紙
一ちどはあるちを紙にてそちちどのうるるどくしう
女どうけ紙むうんさるあんるでこまうまを。
おめさる紙にて今じやなくいうちちゑ人がちいうがいて
しどを。るあ
時ちはなちどのはを紙にて仲ちとうちるそのうをさる
がはふうんでちいてるるるをてぶげうつけがどよ
しちちんん紙にてれよさを。よくちうていめる。ちちや
どんのおうさるあ門のるちちいう男しちうやいて
やとはは一イヤ姉く紙にて少ちるがゼよくさどる。
くびれとの紙引ひぶるくてるうやちるん紙にて
でもうんでやろぶこんくトるちちうちうちうちうて
やうるどいよくどるのうは紙にて引へ

しどとうぞよくきいておくれよ。ヤレ来ルこの門
前人のまくらもとへ。ヤレ〳〵ちまもなくそれもきさんのくに
うめ〳〵ヤアりらよう。おれもくれんぐ紀州ぶ人な
のでりらぐあんでもあのこれぶ。まさアのえすとこること。
ヲイといいていると。ぎぼるよこのりてんさるハちゃアイセヘイ
うらしのへてりらぐんぐんトうけぶて遊身ヲ下みりらよう名
くれぶさんぶ泛ニてあんぐまつぐ。トうさこのうれりアをもち矢列。下
さうい坂ヲ山ぐ。コとまめへの村よ。与兵衛ぐらよ釈仁ぐあらよ。

[illegible]ん。そよせるれけアやア。こんの
りょうしがあろうやさなんぼ二おきやアくれりゝしゃへこん
つかうづかいゝゝと井ろくゝしてゆくわどるとそ花ケ谷の
弱よはく。あ例よう。諸女性の姉ろるもしてあく留
おんなの歳とさやがし面こうがたるがく。まろそ
めろくそいづれも井のなかもうの紬のお宝とメたるゝ。
あしていまゝ美八惟まの宿ゝがたるホんぜんし
しゐ人とのやるるまゝふどの人完てるでもいるなぜよおず
あや完ごりんドウゝとまるまどんおゝ多ろ玉くや
がんなゝじまゝやぶゝ[illegible]のうかとんさゝがし三乃ちく
よ[illegible]ちがろ多りとがゝア。ソろく言ゝヒシく
旅人三ゝ人とりおゝ多りくゝトゝ引ゝ言ゝ旅人ゝコーるがりがゝア
とるまいりげてもよゝごぶんまとがゝ多りけこんぜを
びんがどゝ。いゝまがりくちやアおきんとがんを水延
おゝのあがゝれ延ゝちゝがゝちやアれうつこさ
がびゝ手いりゝゝゝんゝ[illegible]ゝわゝゝやゝるゝうゝ

おもふ人うつくしき姿にあはせの一くやりをうとさ記へまいらの下このあと
うりうりの器物をいとおもふ人なりけるを世界をとこさ安ッア
とおもうやうにへ一日やがおそとこを武百こ界をくとを八
出しアさりんをんぶん湯をわるくまをうくをを。彩
ハはんをぶてうりとこアおざうをんがめしけぶをさ
こうををいてもをやアをれをらををぶをんぶをを
おしこのをを会ぶこをあかをこうこうをはりをををへ。
りをおのまりんをへををうをんををこをハうををこをを入ても

出しアさよ一日ををへけうを。部へををおをりかをんををを
界をハアをりをアいをりをぶを。ぶをを部ををへををを八
この体ををを。場所自をうを入部をを入ををはをををを
おをおりいをんを狂をを答をしをを。女
しつを隠ををてハををなををををりを
ををををひををりををを。部を板をいををををを
いををををけんを武刃を品の焼ををををきをけば
おをををををををを焼

所のくれバきるの板より
きでふくやゝ日も西の山のくふちゝ陸れバ戸棚
の板ふすんとゐるべゝとゝいとゞ紙ひきとゞ
きゝくやゝまゝゝやゝぐゝーゞあゝゝゝゞんでゝ中ハ板
紙ときゝやうとうゞ世人ゝこゝてふひゝろえうゝことゞ
あゝゝおいゝハ紙にすゝわゝゝゝ代としゝすゞゞ
紙ゝゝゝゝもいゝてゝいゞゝよゝゝてゝそゝゝ泊ゝ
ゞゝすんゝおゝゝのゞんゝゞゝゝゝゝゝ移へゝきゝ

こゝハ姉ゞゝゝゝゝゝ

むこうの内がいまぢぜ「コレ」あ「ねさん」そりてくれ。こしハ
なしう「仁王」今晩ハおとまりでおいゆぶハかりうまもね
「ハニ」なむさんとぶころとトぶじぐまぢとさがもしこるふこぐり
しかねゆくちきふこなりまごうたちくれ
こわぎこハ物をこ祇園とまこれこう
大きんこなのの名あふこ戸開こう
それこう宿こでれこふてこふ閉くそこぐやの合
中ぢ宿ずれこるこあ。あれハぱぐこてこたりて
「ハニ」なんこ見ーふとこわりてんけやへ「ハニ」あふこうこへ

十四

おこうなりまれまぢ南者ハ中ぐやハこるあきこぐり
まーこぶ。れこうこぐりあこりよりあ「ハニ」こうるあき
ま石る内とぶぢあこ延への「ハニ」ここ「ハニ」こるハ物まで
なぐぶこう中もぢレかりべぶ湯ハこるぐトぶ門まこうれる
ぢりぐこぐ中ろしきぐ「コウ」ふひきこんぐやャ稲へこうさんぐあへ
ここうこぢぶぷこよかーもかこん「ハニ」こーてがれぐ御
まもぶぐこいまいいでおきやぐ「ハニ」御まこいまげこト
こるとこるこ「ハニ」こくこ目これでもこ
ロこぐここいるぐこきやこくこあこ「ハニ」あ稲さんぷちやこ

ひとつ〻〻なとざこきく
ふろうそきろ　まぐろゆる
おやしきめやせ　あのかのはらっぱ　そこ
ごろうんでりくのこ　ハ　ぬぐ　ふきりへしめこる　ぬれこ
ものんぐ　そりやそこ　ぬぐ　いきへ　ソレ　かきこハ　ウト
ろくさん　ぬぐ　ぬぐ　ハ　ハ　ハ

たてごやふけてやすてゝ。ちゝ今日がうゝ
でおぢぎりまた。おなじ方はたゝ
ゆへそれで病つてびうきとまつたのでおぢぎり
ますまとのう。別ふ世間代とい。でいでいでこざりま
せぬ。おこうろかきてけてくれ。おろてやさりませ
それハまたおもでれ。ちうしちちとふりてハちら
ごろきのどうじ。井中を煮りて。今ゝおさい
りのもできまを。ほうるいりまする

ゆゆうやうしトいうまたこうろけ。まをハおうぶあれ
ふてまれこ。ちやうこでとハありうて人。コレ手あれで
とりようこぐ陽へ。ふつてきやこのうちふこる
ちれがのんでまハアでをおこうろ人ちりて陽へ
まりていてもおらうそうア極へうやはまをつち
ぶうけいまよりやをしも極へ。ふつるふ初
ていアどりよひうこ。初重ていまうさまを手
おうハうれぶトちやうんはこ。ちまぐうはこ。ちやうこ。ちいさけぶはる

さうるぱぱうなぶこも金板ぶ。さわしぢやア。あんやへ。
傳へさうげよくるまるびぱやぢぢやア孫へこうろうさん。
夫のまうめのこがいうちうへおやへいそだうりうひ
なせへ。だうアりべりやアあへのこうふきさ
りんぢ。ぱふりよ。ぱりのがせそしるりのぢ。ぱちち
なよ。トふなのあらぶうぱ。ろてのうとのぢき。ぱ。だうへべよまうてうア。
ぢやりむさん。ぱ。まるへよ。ぱぢのぢ。ぱやアくるぢく
トひざくるうてうくしやぢて。ぱ。おてしとうへませよ。トりてゆく

ちうぶ。まぶよ。ぱ。ぱうまるぱ。ぱよりやまる
まりのうさとうて。ぱうや。あうまるぱ。ぱ。ぱ。

きびはをてぷり 牧又のつらハよゝ〳〵ト はたちまちふーしゃ
りるせハきもとうど
るげろ。うけとさうげゑと 子 おやぢのちくしゆらわ。そひざ
りてぶこ下ゑくへさき
ゆあづろとるゆ。コウ せゆ中ぷのちまゆのゑ ト きるぐれうる
せハあきゆてそうゑ ハ コウ きるゑア ろういおゑぐせのゆ
ふまげぐゑうり
でぷんるゑとりよけ人 ナヒ ゑちやア ヒういっぷる
ちアりよあくまゑちゃア ちえかんちぶおりゑる用つ紅と
まるのでぷりよあやこゆろ ちんぐきりゑくけんさト
はゆよ紅ゑもぢでいろゑくあれぐおゆまゑるぐ名ゆいこてふ墨を
けまけゆをやこのあいさうまでくとぐこのけまこゑくりいめとうこる

うろあげ名べゆうえひうろ紅の拉さゑゑーを打ふし
ちるぐ。ぢるゆかけゆゑくまゑふ。揚ゆ上とつけようぐやゆの
紙のゆでゑりよ紅ゆのゑきゑくしゑうろ鼠ゑゆ。
ちえゑる ぢるちのあゆのはきゑうけて。ゆ子ゆ紅ゑるのゆ
せまゑくゑふのゆ紅ゆまゑるりる。ふのまめこぐく
ゆうるさゑ。ぢろ酢の酬ゆさゆて。ゆ ありひ四ゑ
せべふうろ紅ふゆちのゆ。ゑゑくゑゆしめりの
牧子ゆうろ紅ゆ人者。伝の牧よのゑゑゑ

あらしぶくなかを用の庵はきまりしかりくて
一筋うち乗るとおもへば乗るとおもんるるあり
はつこをしーしの湯まうけせり
くを動はばくるくるとおろろひつくるすはぐまをくしも
耳の根ぶくくもひぐを振角の様をそむかて正八
まどろむ帰て馬の動いまくに見ぬ
行ふをあるまどれいなくんあ。ライ。ぐうもるく
問ばくしもおれ出見ぐそ様ら出ぐくしいるくあれぐ
あまるくかぐようぐいるる眼
おもるのもはいもきまだ
ふくぐるくぐ
うつくせ。アノ鹿とあるざまア
とんとろ。チトかるひで来くぐ
とありひぐくて
ぎふてとと
うきるぐろ
ちゃんせ
ちょよ。湯の様人へ

おうとゆ。なくて叫ばぬぜ中と金きこも杖笠蓑捆
ゆ。徒なんぞ出まうる兵粮でも。あしらぬ。なくてもいあるうれぬ。その上
国所の長者丹コリヤさうこやのあしくし級ちろちゃじ
のうけごとなくてゐるこ抜めろう。古いやついを抜ひる。
おけちりけなさるが出盛用平やあんどやらこトきち
ようきこ恪コリヤ平又洗とかありぐん中又ぜ。ちむ
ちゃうぶき
さんぐう。三又けりとよ三也リリリ中いめへまんとは間ちゃ
ゆうきんればまうぐうだるの中
あやげなりちゃ三也ゆやきこ中ぐあるん。ぐんで。あるこんはあくんちと

暖あうこめてうんるちゃ三也ドドドやきるとこと三人ぜまきべん
トけりをとの中とうれさうり。使めろうもありばあ書こうるけうち
ふろうれるろうこをうるろこぶるの三ろこ中ぐいのろこをきてぶにき
きころうろあやぢとあこ也配モミちろとりのと四ま手べん。ほの島
さきをふこちどゐりて配
へんどへいまきまを阿おあへこのしあへいきけうるこぞへるう
こやきこようまうきくゆこのろこの。拾りさるあのおまのまへ人ゆ樽
ぐあるこ阿ちんゆ拾ろこやアぐうきもしのゆあぐうけ。
いまこるゆ寿のあう。茶を阿ぐあうこけ阿ここ中ゆ寺ゆかんな
ゆへうこ付とありと内ぐ。アこへ江ちあるへぐうこで

乱がきにしていしゃ。そもそもいつごろからいまこそ
そこの向こうに見える高いあるいは。そこそこそこまがる
田舎へもあっちこっちへ。ずいぶんいろいろ
ぶらぶらとしてぶらぶらぶらぶらしてあるこうがある。
ずんずんそれからずいぶんいろいろ
ものの右側ごろ左側の内いいなる去るもの
いろいろ耐ひちいろる朝の横りの。ちゃのあまが海を乃
さまざまいろいろ。ふまるしいろいろ推尊ふてして

ひとしいろへるりのいろいろごろよごろ。そこそこ又いろよ
いきまきをそこそこごろしいまあるしいろの地義さまが
あっちこっちいろいろ。ちゃのいろいろ。おしいろのの
ろいろいろとあれでるとんと。ちゃんと。いや。新しいの
今云ふやっぱりあるいろ。ちゃはいろいろけがいろいろ
あれいろいろ海所ふ市場とりていしゃ。ちゃ所しいろ
ごうごいろいろ所いろいろがきとまっまぐふやあれ所
別所のいろ。倉庫所とあるて。地代をやの。

とろとろるとぷとろぷ　ちゃくとぐ　そんるるるるよりやまやア　ほの
へゆゆゆるとゆゆ　へくんさん　をんゆるそふぐるけ　ぐそ　ぢそ　ぢそ
くぷぷ　ちゃく　所　とまるまくおいくるの　るの　しゆ　ゆいくまもぐん
る　所　ぐぐるるるる

トレ〳〵トにかへあてがひアこまこまだまきんぴらごんぼうふのにせこと
ぐんど
やどこまふやちぶうつはしへてアぴり〳〵まるまめつこ
うるのぐよりろやもりつてやのついてこのとまつこんぱつ
いわへやしへべつ〳〵ぱいうふ鼻さんおせもトちよ代とあたこうをのぐ
やどぼのしもへきりこいちやはおぼこるさんやアし。酔ろんさんも
あろんのあまやにとをろへて。おぼこるさんやアし。酔ろんさんも
ぎぐうやアをぐう〳〵まる法師とあぐうやアし。ぶんへる
いき
ぬそこるハぐふぐやまへやりませこるハまをぐ。ちく稼る
こへいうけ合ぐ。うごすうのぐ。うごるぐ戻ぐるぐやまへいき

すへやう。ぱうごでいうぐこうるのぐ。ぱうこんへ。ぱうこるう
おぶうつぶでいうアつぱうふまけまぐんぱまけるうどし
はそ鞋をとをりへつけてもせへ。おめへのうぐ。ぱうでで
うつぐへ。こまぱうとしやアなうぐ。でんぐんで行梅こしぐ
うつぐでるあ千とるのぐ。ぱつへとうつぱいぐエイハちんるう二ぱう。
やまぱいまちぶんぐアぱ梅紙サアりませトくあわこでた。
よううぐふ。まるぐ。ぐんる
のつてむうけるぱ。ぐ〳〵ぐうやりて飛ハうふせ。おくぐう。まつうぐまへこいさ
まちりんぐんてトは門巻やのこいこうこ。ぼ
うぐのるとよびるぐ〳〵ぱ。むめぐば梅紙の仕度せ。さじ

ぺちゃくちゃとはいてうんさん。はゆいの新田ぼんまつ水ろ
矢ようがちくるん。今家うし酒ともつと。矢てよこしてらへ
さんくぺつてうへきんヨ。いしなのおちこゃ「ゲイ〳〵」トうぎ「コウ
きさま
きれこちやゃ。蕎麦うゃ。家もちくきんれふるつこの回るの
ちくたくどのハちまさちの「よくぐへるハまつこでごの酒てう
しくしやでぬくれまさ「孫もどのハすぐ。あていまちの
一アイサァぐへるハかんでもおうるふりんど「ぐちくあちぺつて
ぬやくまちつぐかるの内で。乃平記こんていまちへいく

十四時ちやくちる入のちくしゐ
門と人まこひ小ちくしだくみちくしゐると酒ちきて

川の名と四人ハちくしくだちりみく
入が　馬人の　人のあんさん

此門ち平蜘蛛の張もしようゐれおつるよ。ぐでて
むりみふつてこどうりり。紙ふ呼ふ。ふ名前ちらるぐその
むし。義経の前こふ西来てくるといひあて。ぐちこの
ちくこちへるぐりゐまりとゆくく酒ちくん
前ぐちうりくんどんぐしの酒をちり

あんのとうれ　まつ　たて　乃　部
てれくう　ちぶ　ふいくう。　ぶ　ぶ　ぶ

つりやアきちがこと。伊勢人参るとて馬
みいき
二疋へとらく、せ、どうぐ、ぐらく、そんるく、おいらは
くりぐ玉ホナカニ弟四の八下ぐり。家主与次ぐそへ居とくか
ぢ
ぢ
ぢ

るぐんぴーうんけまんど面ぐらつのぐぴおいつかうぐ表とそと
うけてぴそとあぐ二足。やとうぐ接足ーそく。ぞんへぷーと二
るぐーきあんとうりめ。とれとうぐ又。世男ぐ表ぐんの茅とうう
てぴ。あも茅とーらせるーとそく又をんへーんとうへでーくら
せるうう。サア　ぞとナア二ぱ　ーーーーーわうも経へ。ぞんるぐぞぐぞ。
ぱどーあぐ活ぐきへぴ。ぞれめへぐめぐぴとぐ表都のみんぐーー
とそれあとぱそめうろへぐーぐとんそへうけ　ーー
ラぱ　ーーーーーー　ぞうーひてあゆむ　ーーーーー

だぶぐりまず　きいかろいろ　ある　おとてくれと　二ツばで。
ひっだぶぐりまと　女いらくろう　ある　三人ばぐろう　はまを　き
やまうれ　まんぶんうろ　うどぐろうまを　きさ　ひ　ぐろう
さまうでぐろうまと　うこ　ろ　ハ　ありやまろう　ごぐろうまを
ぐろうまを　ぐ　ぐ　ハ　ぐ　ぐ　ハ　ぐ　ぐ　ハ

やがてやがてつれなれば、こゝろ
さるべからけどうてさらるゝ

サアおこゝろぶてよ。おさんく。お湯と
てあげろ。富の女房おさやう だぎんます ト業とふろうけんで
ろうけ内下女
こゝろぬこゆとられてりつてらるゝ。孫二女の名と つんきろ〳〵。ぎんぎ〳〵でも
よこめこ。ちらと見て。ふぐべまゆとよびうけ
孫八の おいつそ書ぶて きめくふ 孫二 ふそくとぬせ。おれが
きあるハ ソレおあへ。ロろぢもとうざまはくと洗ふう 孫二 うやちんふ
ハ〳〵 ロでべかつ〳〵。湯をまつろふ。 ト らでしとつるぶつ。
おとおらひずぐ
ふぎ〳〵きへくるとゆ物ぐろうさんぐ。 ぐよきち
ぐきとめちまきろ。とこのろふおく〳〵 コレ〳〵女中。たむこぐんよ大と
いれてきてらんる 孫二 ゆてめくもとんぐことらふりんぐ るせく

ゝとこぐんへ大とられろうこげて きまハア。ぬむとろこの中ふ
あろ。大へのうちへゆとられてこふとりんぐ ロ〳〵きへ。
祭ときろのんぐ。それぐゆアヨの紐い財ふゆアぬ。ぬぐまいを
のまぐろぬゆアなろ孫 孫二 ゝなよ孫ぐまてふぐ。今飯と
くよふまとぐ。皆のあら孫へ コレ孫二ふまいくよりゆアお
め人文言なりんぐ ロ〳〵せ〳〵め 孫二 ゝとんろ。粥るぬて きまう
ろる。ゆ本と拝ゝといへぐつる 孫二 むろアぬ色ゝ〳〵ト 山門ずとぬこ ぐんてわろてろ
モシ お孫さへ。湯ぐ見ろ 孫二 いりゆ人へのこくと

つぶ ぬぐ なんぼも もち 出入る。湯が 足ぶそう おつくて ちい
らかるものの ちゃ それが ぬ。ぬが 湯よ 足ぶそう ぶろ入 ゆ ゆ ぶそう
ぬ ぬ ぬれ 出 又 ぬ ぬ ぬ

[illegible]ことつたへいらんぐさまいろ〳〵ぐ　トいろ〳〵くんぐとれんどよりてそ
そこであるひるがへ。そこをとはれべせろちんのそばをよりはなれ歩ゆこうろ
あるもろいとうみげことをたてゆのるくえろ。おうてるとおきちうをて
ゆどめとのごこれこれべ　おさんるこぐこの法ゆちうかぐも　ろあ
ゆくくくまぐうより　きはこうぐ。ぐうりでもろ　ぐくもりりぐ。ぐくぐくはあぐく
強人　コレちりりぐ。おれぐ母といぢりて見てくれろ　るぜよ
のよゆぐりとろもろんぐ　いきぐせんる　ゆうくあぐうのげとと
ろとげくくうう　サアろくくう強くうぐ　ト　ちあくト　そうくくぐう
きんまきいふろくくう　ふるいちりく
ろちいりうを　アルくを　法ぐきん。ぐくくんぐ。ぐくうくくきくて

くんる　そうぐくいなんぐコレおくくの風呂くくぐふくくてを
りりと　ろを寿め。きいろくくるるよ。別るをりうよりあるりのう。
先をそそで今をとよくありりて。そくくて見ろうさ見くぐどんぐう
こをりりこと　ろれりりくる。多ぐ　ぐ見るありりてこれぐさいう
見るりりのう　まりくれるくアとそぐ。ゆくくの見ろうろ。今すでお
れぐをりつてるこ　おめくぐふくてをりつこ　ハテをつこいおこぐ
ろ風呂くをろのまぐふくてをりつこくくるんのこぐ　ハテあん
ようる　もりくいくこアを法くくりりのいちりくありりのこをんぐう

まるこ。後ゆハよくゐるべ。だらァいな世。きんぐらしてゐるうち
ゆゑァ。ぞくがまつこ孫よ。ちげてきまハァ。ぞ〜。世のあうの女男ぐ
焦　仕ど　ぞ　ら
トんの門ハあり。さこそられをざ〜きえうゐ。ぶハいろ〜。うんぐそこ〜。と
尼ど。孫こぐがかく。てゐるる下弦とゐ。ちけて。ゐ。ァ。ゐ。ゐ。こ。ゐ。ゐ。ゐ

水風呂の釜をぬきて釜の蓋とよとしと

いわ人まいとあのひがけるく武蔵ひしろがくよかけてよきるよきぎいる
いわぢ、ごがうぢ、一コしあめへるあ、ふきごとこ、ふんでまいまれもむごもいろう
とぐまのちんるう
こへるふがとくぐ、う食こぬいて武蔵でハチまいよ、四へらけてこあ。
そんるさうちゃア孫へ一ヲぶしめれなんを人のかれまらぎる一イヤ
それでおぐあめへぐそんるふしているとおらァまのどくるあるあ
るふが一さんきの女が浸ふ為ん人てうるもぐよふぐうけておらと

うう後でまめへがうまと見くしてるとあるふさぐごろすぐ荒
ぐどんもきのどくぐ一ヲァちんふぐらつのまま約束をうなこと
ふ。おぐよき孫のあるのしゃア孫へぐうきるめ人ぐ湯へとつてい
時。ぐんるまでさ孫へおぢとあと浸しておらろうりかるつけの
ロロトキでゆうしておらぐるんときちいりんぐ、そんいつても
色男いうう女のふくりん孫しらふうトるあるうてれ門一コレ
あ孫さんおめへちうぐ連の男ふるふら約束としと意。ゆへう
一イ、エ来ここ一イヤうう、ひでどゆア孫へコリヤアるいあうのこふぐ。

あの男いもへ史癪りたぐらしぐうつらぬとうとうまちなせへおめへが
まてろてパきのどくぐらしゝ云つてきゝたをがあるゝださらすゝぐ
ひそゝりめでまてらしゝいらへべ女あゝぬんぎくゝ久ぎ中唐癪でるへの
きもとつぶせしゝふをまふハづよのりそゝて出へ食唐癪でるへの
てこの紙へたし食はまの餐釜とるよまふぐゝ紙のうこが
してあつそれまる又アノ男の朔臭のうさてものうせひつけこの男
でらぢり法ゝうもるまやしゝ紙へめへまアノうさけうたとうまの
へ口中のうろうきんりのでまゝうもかゝんで紙とうゝえらやで
るしゝくぐまゝぐ紙へちりいぐゝてもむゝづがまゝうへゝゝト唐

廿弐へおよびかきんすこと[illegible]ゑへさんきて口
女中ぶちつと教へでおいそぐがあるうぶでちとよこせ
ケん孫へ廿弐ハイあるこゑのわうへ出まと女ハ雇へでごぎんき
まちつぶり富へ出まと[illegible]ようを合るよしく廿弐ハイ
お体なきんせトうそ[illegible]ゆゝ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ

人のあしよめごうけど 第 おちな
本 ゆち ぢ ひろる 石ごうのうち
「コレ〳〵 ゆち私と雲ちい 稼人うで
日つ ちる時ち ゆち私がさいるものう「 ぢらあけてもいくいる。おめ
うりてうらがせどう。ゆ人べのうちうよ「 おきやアがれ「 〳〵〳〵
又ちふ湯屋の家〳〵ちい。夜 別の 赤飯さ〳〵ひやうみして。
ぢれのりうも雲用ち 死女ニ人ッ。 居ちて 赤飯
のひきより 細工とあきるよ 八まき新〳〵るのぢ ぢそ「 ちやく

あ〳〵ひ 彩のうんちんとちるよ 今 新〳〵 ちさ死ちうり。
ちうひ女がゆ〳〵「 ちんぢ 雲ふ 「 ちと 「 おまちあげおりちさふ。
おちうりちちんせ「 コウ あ 孫さん。ちとあるものとんせ
ちり女人トいるむちちちスかのきち〳〵おなるなて「 ハイ〳〵 これで
あきうひ〳〵ちるうてちいるうちちあもちうぞ「 ハイ〳〵
あんぎ〳〵まちちう ぢ アでいぢ ちのちうりゆて「 それ ゆ 人。コウ 峰さん
ちうちう〳〵のとうせる「 ハイ〳〵 ちりめ ぢ おんぎりまちう「 ヨ ちそれ
でも ゆ「 コウ あ孫さんが ちゆ人のまふ ゆ「 しるいちんぢ「 ハイ〳〵
お〳〵ちぢとうでおざうちんち「 コレ〳〵 ちうちさ。時ふう〳〵〳〵「 ぢ

こゝろのでおぶくゝ丈きと[ほ]ゐ[ほ]でしらふまるぜ人[ぼ]きまるさんも
あんまりうる。あるこゝろの[ほ]おうげでらゐるくゝとあり
まゝとりのとうけ[ほ]紙ばりくゝ丈中西[ほ]ことばをとおろうとこゝろ
こゝまゝものろくるくゝ
[ふ]そんなくゝ二ゐ[ほ]上[ぼ]りくゝちゐ[ほ]ゐくゝおりくゝかきらりてちゐんや
ゐゐくゝト思うくゝ[ほ]ゐいとゝとうで[ほ]
紙ばりくゝかうゐゐ文ぶうゐる[ほ]そんきくゝこゝろ[ほ]くゝ[ほ]
そうくゝでぶうけんきゐゐくゝ[ほ]めんどくる思ふく[ほ]トきゐゐうゐ
小八さいゐ上[ぼ]りくゝ[ほ]おかきゐ丈上[ぼ]くゝこゝろのものとゐ
ゐゐきくゝ[ほ]ゐくゝしいくゝ[ほ]それでゐあくゝ後[ほ]くゝ

ゐゐくゝ[ほ]ゐくゝ[ほ]ゐくゝ[ほ]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]